様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：２２７０１
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ１７３８６

研究課題名（和文）臨床研修医を対象とした自殺予防教育プログラムの開発に関する研究

研究課題名（英文）Development of suicide prevention education programs for junior residents

研究代表者
井上　佳祐（INOUE, Keisuke）

横浜市立大学・医学研究科・客員研究員

研究者番号：５０７６９６１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　900,000円

研究成果の概要（和文）：自殺予防について学ぶ機会の少ない臨床研修医を対象に、国内外の自殺予防の教材・資料を元に、自殺予防教育プログラムを作成した。
私たちは、臨床研修医に対して講義をし、講義の前後で、評価尺度を用いた、自殺の危険性が高い者に対する態度や対応技術の測定をすることで、プログラムの効果を検証することとした。しかし、新型コロナウイルスの影響でクルズスが継続できず、対象者は15名と大変少なくなってしまった。ただ、本プログラムによって、臨床研修医の自殺に対する態度が改善することが示唆された。今後は、オンライン講義などを行うことで対象を増やして、改めて効果測定を行いたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義
自殺予防について学ぶ機会の少ない臨床研修医を対象とした、自殺予防教育プログラムを開発した。対象者は少ないものの、自殺に関する態度が講義の前後で改善することが示唆された。今後、オンライン講義などで対象者を増やして調査を再度行うことで、自殺の危険性が高い者に対する対応技術の改善にも本プログラムが寄与するか検証することが可能となる。本プログラムが広まることで、多くの初期研修医の自殺予防に関する態度や対応技術が向上していくことが期待される。

研究成果の概要（英文）：We developed lecture materials for junior residents who have few opportunities to learn about suicide prevention.
We gave lectures to junior residents and measured their attitudes and response skills toward those at high risk of suicide using a rating scale before and after lectures. Due to COVID-19, we could not continue lectures and number of subjects was very low. However, the program improved participants' attitudes to suicide prevention. We would like to increase number of subjects and measure the effectiveness of this program again by conducting online lectures and so on.

研究分野：精神医学

キーワード：臨床研修医　自殺予防　教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

我が国では、平成 10 年に自殺率が 10 万人あたり 26.0 人と、平成 9 年の 10 万人あたり 19.3 人から急増し、その後も自殺率が 10 万人あたり 20 人超という状況が続いていた。平成 18 年に自殺対策基本法が成立し、平成 19 年には自殺総合対策大綱が政府により策定され、関係府省庁や地域の関係者によって自殺対策が進められ、近年では徐々に自殺率が下がり、平成 27 年には 10 万人あたり 18.9 人と、17 年ぶりに 20 人を切った。しかし、平成 25 年の OECD 加盟国の平均自殺率は 10 万人あたり 12.4 人(OECD, 2014)であり、諸外国に比べて我が国の自殺率は依然として高いままである。

自殺は、世界的にみても主要な死因の一つであり、うつ病をはじめとするメンタルヘルス問題を基盤としていることが知られている。自殺予防のためには、うつ病等をはじめとした精神科疾患に罹患した者を見つけ出し・適切な治療を行うことが重要である。しかし、うつ病患者は、身体症状を主訴に精神科以外の診療科を受診することが多く、精神科受診に至っているものは少ない（三木, 2002）。また、プライマリケア医は、うつ病などの精神疾患を見逃しやすく、精神科加療を必要としている患者が治療されないでいることが少なくない（Goldman et al., 1999; Hirschfeld et al., 1997）。そのため、プライマリケア医等の精神科医以外の医師が、精神科疾患についての知識を有していること、さらに自殺リスクの評価ができることが重要である。我が国において、精神科以外の医師を対象とした、自殺予防のための研修会は、各地で行われてきたが、その効果測定は不十分なものが多い。さらに、臨床研修医に限ると、自殺予防について体系だって学ぶ機会はほとんどなく、どのような教育内容が効果的かすらわかっていない。

２．研究の目的

平成 29 年に策定された新たな自殺総合対策大綱では、かかりつけ医等がうつ病等の精神疾患の理解と対応ができるようになることに加えて、患者の自殺リスクを的確に評価できるようになることが勧められている。また、臨床研修等の医師を養成する過程で、そのような機会が与えられることが推奨されている。しかし、臨床研修医が、自殺予防について学ぶ機会はほとんどなく、現状では、多くの臨床研修医が自殺リスクの評価を適切に行えていないのではないかと考えられる。そのため、本研究では、臨床研修医が自殺予防について必要な知識が習得でき、自殺リスクを評価できるようになるなど、適切に自殺予防を行えるようになるための教育プログラムを開発し、また、その効果測定を行うことを目的とする。

３．研究の方法

横浜市立大学附属市民総合医療センターでは、精神科での研修を行う全ての臨床研修医を対象に、同病院スタッフが、うつ病等の精神疾患の病態・治療等に関する講義を行っている。同病院では、毎年約 50 名程度の臨床研修医が精神科研修を行っている。本研究では、同講義の内容を修正するとともに、自殺予防に関する内容を追加する等して、自殺予防教育プログラムを開発する。特に、わが国における自殺の実態や精神疾患と自殺との関係、自殺の危険因子やリスク評価法、自殺の危険性が高い者へどのように対処するか等を学べるように、国内外の自殺予防の教材等を参考に、自殺予防教育プログラムを作成する。

援助者の自殺に対する態度は、自殺の危険性が高い者への対応に影響を与える(Bagley and Ramsay, 1989; Samuelsson, et al., 1997)。また、自殺の危険性の高い者に適切に対応するためには、高度な技術が必要である。臨床研修医を対象に、研修プログラムの受講前後で、評価尺度を用いて、自殺の危険性が高い者に対する態度や対応技術を測定し、講義前後で比較する。用いる尺度は、以下に示す。

（１）日本語版 Attitudes to Suicide Prevention Scale(ASP) 自殺予防に対する医療従事者の否定的態度の測定に焦点化した指標である Attitudes to Suicide Prevention Scale (ASP)を使用する。ASP は 14 項目からなりたっており、各 1－4 点のアンカーポイントとなっており、スコアの合計は 14－56 点である。得点が低いほど、自殺予防に対して良好な態度を有していることを示している。ASP は、対象者の専門性によって得点が異なるとされている。日本語版 ASP（ASP-J）は、川島らによって作製され、その妥当性が確認されている（川島ら,2010）。

（２）日本語版 Suicide Intervention Response Inventory (SIRI)短縮版 Suicide Intervention Response Inventory (SIRI) は、自殺の危険性を有するクライエントとの相談場面において，適切な受け答えを選択することができるスキルを評定する自己記入式調査尺度である。SIRI の日本語版（SIRI-J）は、川島らによって作製され、その妥当性が確認されている（川島ら, 2013）。しかし、SIRI-J は、合計 48 項目と項目数が多く、回答時間が長くかかり、回答者への負担が大きい。そのため、川島らは、SIRI-J の短縮版（SIRI-JS）を作成し、その妥当性を確認している（川島，川野，2013）。本研究では、SIRI-JS を使用する。SIRI-JS は、13 項目で構成されている。13 項目の構成は、変更(alteration)と肯定(validation)の 2 因子(各 5 項目)および 3 つ

の単項目からなる。構成各項目において、まずクライエントの発言が提示され，それに対する援助者の受け答えが続いて提示される。回答者はその受け答えを，−3(とても不適切な受け答え)から＋3(とても適切な受け答え)で評価する。SIRI-JS は，回答者の素得点と自殺予防のエキスパートの平均素得点との距離(絶対値)を得点として算出するため，得点が高いほどエキスパートから離れており，スキルが低いことを意味する。

2019 年 11 月の講義より、質問紙調査を開始した。対象者の性別や年齢などの特性に加え、講義の前後で ASP-J、SIRI-JS「変更」および SIRI-JS「肯定」について調べ、Student の t 検定で前後比較した。有意水準は 5%未満とした。

なお、本研究は、横浜市立大学ヒトゲノム・遺伝子研究等倫理委員会で承認を得ている。

４．研究成果

2020 年 1 月の第 2 回目の講義を最後に、新型コロナウイルスの影響で講義が終了となった。講義に参加した 16 名のうち、15 名から研究参加の同意が得られた。自殺に関する態度を測定する ASP-J については講義前後で有意に改善を認めたが、対応技術を測定する SIRI-JS については「肯定」「変更」の両因子ともに講義前後で有意な差を認めなかった。新型コロナウイルスの影響で対象者の人数が大変少なくなってしまったため、今後は、オンライン講義などを行い、改めて効果測定を行いたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Inoue Keisuke、Otsuka Kotaro、Onishi Hideki、Cho Yoshinori、Shiraishi Masaki、Narita Kenji、Kawanishi Chiaki	４．巻 48
２．論文標題 Multi-institutional survey of suicide death among inpatients with schizophrenia in comparison with depression	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	６．最初と最後の頁 101908～101908
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ajp.2019.101908	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Inoue Keisuke、Kawanishi Chiaki、Narita Kenji、Cho Yoshinori、Otsuka Kotaro	４．巻 74
２．論文標題 Suicide prevention and postvention in hospitals in Japan: Current status and perspectives	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	６．最初と最後の頁 414～415
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/pcn.13015	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kawashima Yoshitaka、Yonemoto Naohiro、Inagaki Masatoshi、Inoue Keisuke、Kawanishi Chiaki、Yamada Mitsuhiko	４．巻 60
２．論文標題 Interventions to prevent suicidal behavior and ideation for patients with cancer: A systematic review	５．発行年 2019年
３．雑誌名 General Hospital Psychiatry	６．最初と最後の頁 98～110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.genhosppsych.2019.07.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Harashima Saki、Fujimori Maiko、Akechi Tatsuo、Matsuda Tomohiro、Saika Kumiko、Hasegawa Takaaki、Inoue Keisuke、Yoshiuchi Kazuhiro、Miyashiro Isao、Uchitomi Yosuke、Matsuoka Yutaka J	４．巻 9
２．論文標題 Suicide, other externally caused injuries and cardiovascular death following a cancer diagnosis: study protocol for a nationwide population-based study in Japan (J-SUPPORT 1902)	５．発行年 2019年
３．雑誌名 BMJ Open	６．最初と最後の頁 e030681～e030681
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2019-030681	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上佳祐，日野耕介，伊藤翼，松森響子，六本木知秀，野本宗孝，高橋雄一，平安良雄	4．巻 31(2)
2．論文標題 救命救急センターに入院となった、高齢の自殺未遂者の臨床的特徴	5．発行年 2019年
3．雑誌名 総合病院精神医学	6．最初と最後の頁 193～198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takao Ishii, Takafumi Morimoto, Masaki Shiraishi, Yoshiyasu Kigawa, Kenji Narita, Keisuke Inoue, Chiaki Kawanishi	4．巻 21
2．論文標題 Retrospective Study of Trazodone Monotherapy Compared with Ramelteon and Trazodone Combination Therapy for the Management of Delirium.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Psychiatry	6．最初と最後の頁 444
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4172/2378-5756.1000444	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Masaki Shiraishi, Takao Ishii, Yoshiyasu Kigawa, Masaya Tayama, Keisuke Inoue, Kenji Narita, Masaru Tateno, Chiaki Kawanishi:	4．巻 15
2．論文標題 Psychiatric Consultations at an Emergency Department in a Metropolitan University Hospital in Northern Japan	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Psychiatry Investigation	6．最初と最後の頁 739-742
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.30773/pi.2018.04.04	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 井上佳祐，野口普子，川島義高，本間英之，中島真人，小林真理，丸山美香，島津太一，三角俊裕，三枝祐輔，藤森麻衣子，内富庸介，松岡豊
2．発表標題 がん患者に対するメンタルヘルスケアへのアクセス勧奨法の開発：予備的調査II
3．学会等名 第33回日本総合病院精神医学会総会
4．発表年 2020年

１．発表者名 井上 佳祐，野口 普子，島津 太一，三角 俊裕，三枝 祐輔，藤森 麻衣子，内富 庸介，松岡 豊
２．発表標題 がん患者に対するメンタルヘルスケアへのアクセス勧奨法の開発：予備的調査
３．学会等名 第32回日本総合病院精神医学会総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 松岡豊，井上佳祐
２．発表標題 気持ちの辛さへの気づきを促す自殺予防戦略
３．学会等名 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会 2019年7月20日（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井上 佳祐，永露 毅，瀬本 みさと，六本木 知秀，野本 宗孝，高橋 雄一
２．発表標題 統合失調症を合併したMyhre症候群の1例
３．学会等名 第115回日本精神神経学会学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 恩田 優子，野地 貴，井上 佳祐，許 博陽，野本 宗孝，六本木 知秀，高橋 雄一
２．発表標題 ブレクスピプラゾールで悪性症候群を呈した一例
３．学会等名 第115回日本精神神経学会学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 井上佳祐
２．発表標題 入院中の統合失調症患者の自殺予防
３．学会等名 第14回日本統合失調症学会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Keisuke Inoue, Maiko Fujimori, Chiaki Kawanishi, Tatsuo Akechi, Yosuke Uchitomi, Yutaka J. Matsuoka
２．発表標題 Attitudes toward suicide prevention, suicide intervention skills and communication in medical staffs concerned with cancer patients.
３．学会等名 8th Mind-Body Interface International Symposium（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 井上佳祐，日野耕介，伊藤翼，松森響子，六本木知秀，野本宗孝，高橋雄一，平安良雄
２．発表標題 自殺未遂のため救命救急センターに入院となった、妊産婦の臨床的特徴.
３．学会等名 第37回日本社会精神医学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 松岡 豊，井上 佳祐，藤森 麻衣子，明智 龍男，河西 千秋，鈴木 秀人，内富 庸介
２．発表標題 がん医療における自殺ならびに専門的・精神心理的ケアの実態把握
３．学会等名 日本自殺総合対策学会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関